

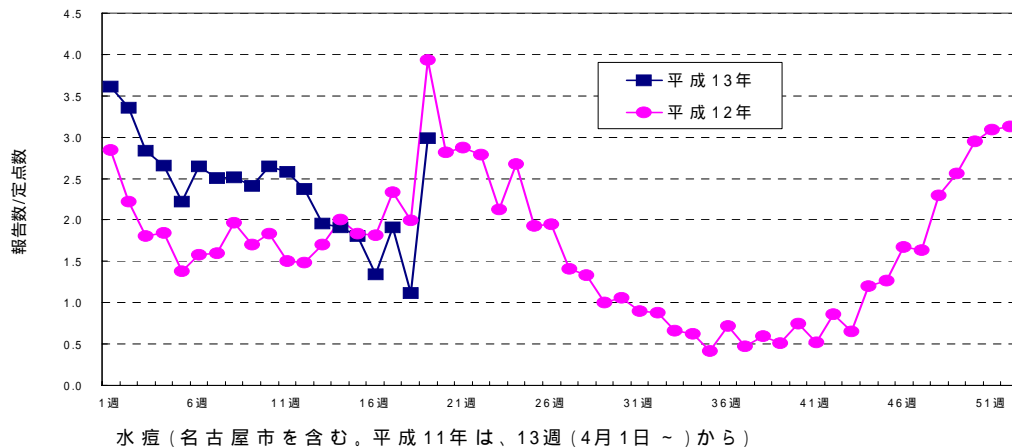
# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 19 週（5 月第 2 週）

（コメント）

水痘は、報告数の多い時期にきていますので注意してください。水痘についての詳しい説明については、愛知県衛生研究所のホームページ（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）をご覧ください。

麻疹の報告数は、豊川及び春日井保健所管内で多いようです。伝染性紅斑、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎も報告数の多い状況が続いています。



（定点の先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
  - ・ 水痘、ムンプス流行中  
（一宮市 あさのこどもクリニック）
  - ・ 病原性大腸菌陽性症（O1 9 歳男、O86a 5 歳男）  
流行性耳下腺炎 3 名（3 歳男 2 名、4 歳男）  
インフルエンザ A 2 歳女  
（尾西市 城後小児科）
  - ・ マイコプラズマ肺炎と思われるものが流行しています（6 人）。  
手足口病が始まりました。  
（犬山市 武内医院）
  - ・ 急性胃腸炎目立つ。溶連菌散発。仮性クループが目立ちます。  
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
  - ・ 麻疹（11 ヶ月男）ワクチン未接種です。少し麻疹が流行しはじめて  
いるようです。

( 江南市 みやぐちこどもクリニック )

- ・ 水痘が目立つ

( 新川町 三輪医院 )

- ・ マイコプラズマ肺炎 女性 20 歳以上 1 例

( 師勝町 田中クリニック )

- 尾張東部地区

- ・ 発症後 3 日頃より発典型的な症状をきたす咽頭結膜炎 ( アデノチェック陽性 )、マイコプラズマ肺炎が多くみられます。流行性耳下腺炎も流行しています。インフルエンザは 4 例 ( Fl uA\* 陽性 1 名、その兄弟例 3 名 ) でした。高熱 4 ~ 5 日続く症例がみられます。

( 瀬戸市 津田こどもクリニック )

注 ) Fl uA\* : A 型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ 流行性耳下腺炎再び増加傾向です。溶連菌感染症も流行続いています。その他目立った感染症はありませんでしたが、マイコプラズマ様の呼吸器感染症が少し目立ちました。

( 尾張旭市 佐伯小児科医院 )

- ・ クループ様の咳を伴う発熱例多い。

( 美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院 )

- ・ 水痘とムンプスの流行が続いています。

( 春日井市 朝宮こどもクリニック )

- ・ 今週は感染性胃腸炎、水痘がみられました。

( 春日井市 かちがわ北病院 )

- ・ 麻疹小流行。ロタ胃腸炎減少。

( 小牧市 小牧市民病院 )

- ・ 麻疹が急増しました。

( 小牧市 志水こどもクリニック )

- ・ カンピロバクター腸炎 2 歳男

水痘 感染性腸炎が小流行

( 大府市 早川医院 )

- 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 0153 7 歳男

カンピロバクタ - 腸炎、病原性大腸菌 01 2 歳女 ( カンピロバクタ - と病原性大腸菌 01 が同時に検出されました。 )

マイコプラズマ感染症 1 歳女

( 豊田市 星が丘たなかこどもクリニック )

- ・ 麻疹 1歳男（ワクチン未接種感染機会不明）  
（岡崎市 杉浦医院）
- ・ ロタウイルス 1歳女  
（岡崎市 深田小児科）
- ・ カンピロバクター 8歳女、サルモネラ 3歳女 07（＋）、病原性大腸菌 06  
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌 10歳男 018（＋）VT1・2（－）、咽頭結膜熱 6ヶ月女  
（岡崎市 にいのみ小児科）
- ・ 病原性大腸菌 1歳06 VT（－）、カンピロバクター 1歳、インフルエンザ 7歳（OIA\*陽性）  
（幸田町 とみた小児科）

注）OIA\*：A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する。ただしA・B型の区別はできない。

- ・ 水痘：やや増加 ムンプス：散発  
（碧南市 永井小児クリニック）
- ・ ウイルス性下痢症増加、2ヶ月の水痘患者は祖父の帯状ヘルペスよりの感染。  
（西尾市 やすい小児科）
- ・ 先週は水痘が少し目立ちました。  
（西尾市 山岸クリニック）

#### ● 東三河地区

- ・ 相変わらず、水痘、流行性耳下腺炎が多くみられます。  
（豊橋市 あずまだこどもクリニック）
- ・ 溶連菌感染症の児が増えています。  
サルモネラ 08 8歳女  
麻疹 1歳女（内科病棟で成人麻疹の人と接して感染）  
（豊橋市 こどもの国大谷小児科）
- ・ 3ヶ月児の水痘あり。姉から感染。  
先週に続いて高熱児が目立つ。数日～5～6日続き肺炎例もあり。  
（田原町 かわせ小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

報告はありませんでした。

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )

AIDS 患者 1 名。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 名。

第 17 週 ( 平成 13 年 4 月 23 日 ~ 4 月 29 日 ) 及び第 18 週 ( 4 月 30 日 ~ 5 月 6 日 ) の 4 類感染症の全国状況

[ 第 17 週 ] 麻疹は、過去 5 年の同時期と比較して定点当たり報告数がかかなり多くなっている。流行性耳下腺炎も例年と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が持続しており、福井県で 6.1 、佐賀県で 5.2 の報告がある。感染性胃腸炎は石川県で定点当たり報告数 21.1 と多くなっている。咽頭結膜熱は依然例年になく定点当たり報告数が多い状態が持続している。

[ 第 18 週 ] 第 18 週は平日が 2 日のみで、咽頭結膜熱以外の疾患では報告数が前週よりも極端に少なくなったものもあり、これらの疾患の時系列での評価は難しい。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり 4 と報告数が多くなっている。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供 )

2 0 0 1 年 4 月 6 日号 ( 7 6 巻 1 4 号 )

新生児破傷風根絶計画。ジンバブエ：W H O と U N I C E F と共同でジンバブエ厚生省が新生児破傷風根絶 ( 目標は 1,000 出生あたり < 1 例 ) 作戦展開、今回はその評価。新生児破傷風の報告数、清潔な分娩の普及、妊婦に対する 2 回以上の破傷風トキソイドの接種状況が調査された。調査法として新生児破傷風根絶計画でバングラデシュ、インドネシア、インドのこれまでの抽出法によった。破傷風トキソイド接種率 8 0 %、清潔な分娩の普及率 7 0 % の実績とともに新生児破傷風感染例は減少している。

食肉の抗生剤使用監視。本年 9 月 1 0 - 1 3 日、オスロ ( ノルウェー ) で W H O が国際会議開催。演題募集。

インフルエンザ ( 0 1 年 3 月 ) : ル - マニア、スエ - デン。B 型主体の流行。

3 月 3 0 日 - 4 月 5 日届出疾患 : コレラ。南アフリカ、ザンビア、インド、香港。

2 0 0 1 年 4 月 1 3 日号 ( 7 6 巻 1 5 号 )

致死性レプトスピラ症。アゾレス諸島 ( ポルトガル首都のリスボン沖の北大西洋に浮かぶ群島。ポルトガル自治領 )。最近数年間、レプトスピラ感染症が増加し問題となっている。調査結果から特徴としては、島によって頻度の差がある : 最大人口のテルセイラ、ついでサンミゲル島。地区によって種類の違いがあるが ( 血清学的には 3 型あり ) いずれも宿主は鼠。保有動物である鼠からの感染がヒトの感染源である。レプトスピラの分離培養は実施されていないが血清学的調査から罹患者の年齢は 3 9 歳 ( 1 4 - 7 6 歳 )、8 7 % が男性、臨床像は原因不明熱、悪寒、筋肉痛、頭痛、黄疸。死亡例は検査上確定診断がついていない。臨床診断だけであり、今後の検索が急がれる。

ポリオ根絶とメジナ虫根絶。ス - ダン ( 注 : アフリカ東北部。アフリカ最大の国。ナイル河沿いの豊かな国であるが北部のイスラム圏 - 国教となっている - と南部のキリスト教徒ないし原始宗教徒が激しく対立、激しい内戦が続く大量の国内難民・飢餓が発生、感染症対策が非常に困難な状況にある )。ポリオ生ワクチンの接種率は北部の政府支配地区の予備調査で 7 0 % 以下、南部では非政府組織で実施されているが全体で 2 0 %、ナイル河上流地区ではさらに低率と推定される。定期接種に加え戸別訪問による年 2 回の全国一斉接種が 9 8 年から開始、ポリオ様疾患の届出も 9 9 年から開始。メジナ虫 ( 経口感染する寄生虫。中間宿主はミジンコ。成虫は腸管から全身を回り、下腿皮下で皮膚を破り産卵する。ひどい皮膚炎をおこす ) 対策は 9 5 年に患者数の少ない北部で開始、北部では減少しているが治安の悪い南部では 2 0 0 0 年から国境なき医師団などの非政府組織が中心となって開始。2 0 0 0 年 1 - 7 月には 9 9 年同時期の 2 7 % 減となったが報告網整備とともに常在地の罹患者は 7 8 % から 9 4 % となっている。

インフルエンザ ( 0 1 年 3 月 ) : デンマーク、A H 1 N 1、アイスランド B 型、フランス、A 型は減少、B 型が主流。

4 月 6 日 - 1 2 日届出疾患 : コレラ。マダガスカル、モザンビーク、ソマリア、スワジランド、ザンビア、インドイラン、イラク、オマ - ン。

連休が終わり緑の一段と濃くなった公園では遠足の子供たちの帽子の黄色が日光にまぶしく映えるようになりました。暑ささえ感じる昨今です。いつも貴重な情報を有難うございます。4月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：三菱病院岩間先生からは水痘、ムンプス、A型インフルエンザが散発中で気管支肺炎、脱水を伴う感冒性嘔吐下痢の入院例あり、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎がぼつぼつ、伝染性紅斑1例、熱と咳鼻汁の感冒の家族内感染あり近くの幼稚園で散発中、労災病院山田先生からは麻疹（入院例目立つ）、ロタウイルス感染症を含む胃腸炎、アデノウイルス感染症（要入院例あり）、インフルエンザA、マイコプラズマ肺炎、溶連菌感染症と急性咽頭炎、EBウイルス感染症などが目立つ、大同病院水野先生からはインフルエンザA（脳炎合併例あり）、アデノウイルスと思われる夏カゼ（肺炎を合併し入院例あり）、麻疹、伝染性紅斑、ムンプスが流行中とのお手紙をいただきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはムンプス、溶連菌感染症、水痘、感染性胃腸炎がそれぞれ散発中、常滑市民病院上田先生からはロタウイルス腸炎とロタウイルス以外の胃腸が大流行中で脱水による入院例が目立ち、麻疹、水痘（共に数例ずつ発熱、脱水、重症で要入院例あり）、ムンプス（髄膜炎合併例あり）が流行中で伝染性紅斑と伝染性単核症が散発中とのお手紙をいただきました。

3. 三河地区：岡崎市民病院系洲先生からは劇症型のウイルス性脳炎・脳症（死亡）1例あり、安城更生病院小川先生からは水痘が散発中でマイコプラズマ肺炎がやや多い、知立市近藤先生からはムンプスが流行中で乳児下痢症が多く（ロタウイルス陰性）、肺炎4例中マイコプラズマ2例、カンピロバクタ - 腸炎と病原性大腸菌O18感染症1例、刈谷市田和先生からは水痘がやや目立ちムンプス、溶連菌感染症、伝染性紅斑が散発、3～6日高熱が出て咳の強いインフル陰性の感冒が目立つ、碧南市永井先生からはムンプス、溶連菌感染症、水痘が散発中、豊橋市宮澤先生からはロタウイルス腸炎、ムンプス、水痘などの少数例がみられるとのお手紙でした。有難うございました。